

「嬢ちゃん

さっきの勝負ワザと負けたる」

「なんだ・・・
バレてたのか」

「何だよ〜
そんなにオレとやりたかったのかあ♡」

「まあ最近〜無沙汰だったし
おっちゃんとは
もう何回もやってるから
ちよーどいいかなって」

「ひひっ〜
相変わらずちっちええくせにエロいなあ〜
そんじゃ
いつものやってくれよ♡」

「おっちゃんコレ好きだよね
すぐち○ちんバツキバキになるし♡」



ひやあ

「最初のころはもつとウブで
キコちなかったんだけどなあ♡
初めてやったのは嬢ちゃんの店だったか」

女遊び

「よく店に来るキモいおっさんだと思ってたら
閉店前にイキナリ襲いかかってきたよね
メチャクチャに犯されたし♡」

「ぐひっ」

ずっとポーリング好きな客の
フリして狙ってたんだぜ♡
どーやって犯してやろうかになってなあ

今じゃこーんなに
指でマ○コが広げられるくらいに
なったしな♡」

「ひやあ!!らめっ

広げすぎっ
ひろげすぎだよお!!」

「この小っちゃええま○に
挿入ののかと思ったけどよ
根元まで啜え込んできやがるし♡」

くはあ



「お・オレももう限界だわ
ナカにたっぷりブチまけてやるぜっ」

「ダメっ！」

体じゆう精液まみれにしてえ
おっちゃんのクサいので
ベチヤベチヤにしてよお♡

「ったく・・・
腹の中セージまみれに
してやるうと思ったのによお
ぶっかけて欲しいって
どんだけヘンタイなんだよっ♡」

「はやくダしてっ♡
ほらっ
ワキにビューっしてたみっ♡」



「しゃーねーなあ
ほらよっ

お望みのザーメンだっ♡」

「うわあっ！

手〇ポ汁すごい♡

さっきあんなに射精したのに
濃すぎるだろお♡」

どろろアッ!

びちゃびちゃ!

「うへえ♡

我ながらきたねえザーメンだぜ
ハルちゃんのネクタイにも
かかっちゃまったなあ♡」

「ひはああ♡♡

ハルちゃんもセーシみれだあ♡
好き♡セーシ好き♡
おっちゃんのプルプルち〇ぽミルク
もっとタしてよお♡」

ちゅぽ

ふう

ふう

アキ

アキ

アキ

アキ

アキ

アキ

アキ

アキ

アキ

アキ

アキ



「プっヒッ……」

ホントにパンツ穿いていないんだな

近所のオッさんたちの
ウワサになってたけどよお♡

はっ

あ……

「えっ……!?
な……何してるのっ」

そっ
そっ
そっ
「それはダメえ!!」

「ほおっ♡」

オレの指の毛が絡まって
お○んこキモチイイだろお」

「おおおっ♡」

ま○こヒダがネトって
吸い付いてきやがるっ」

アッ

アッ

アッ

アッ
アッ
アッ
アッ

「ちよっ…」

そんなにコスちやイヤあ…
出ちやうっ
おしっこでちやううう」

「いいぜっ♡
イっちまいなよ

きっねえオツサンに
指でイジリまくられてイっちまえり…」

「おおあああ…」

らめえ…
れちやったああ…♡」

「スゲえなあ♡
手がエロ汁で
ベタベタになっちまったよ♡」



「そんじや

オしも気持ちよくしてもらおうかな

そうだなあ・・・

フェラもイイがほっぺたで

シゴいてくれよ」

「ほっぺでって・・・

うわっ!!アッ!っ

お〇んちん熱くて

ビクンビクンっってってるよお!」

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

先走り汁と穂乃ちゃんの汁で
ヌルヌルしてたまんねえわ♥」

「えっ!!?」

ひやああ」

「おっわりいわりい♡

あまりにキモチよすぎて
つい射精しちゃったよ♡」

パ
プ
ッ

ハ
キ
ッ

ビ
ッ

ニ
ッ

は
あ

は
あ

は
あ

「……これなに？
ねばねばしてるし
スゴく臭いニオイがするよお」

「何だあ知らねえのかあ
セーシだよセーシ♡」

「こいつを今からたーっぷりと
穩乃ちゃんのま〇に
流し込んでやるからよお♡」

ひ
ッ

ひ
ッ

「おっと

まだ挿入れちゃダメだぞお

「ひゃふっ！」

おっちゃんのチ○チン
ヌルヌルいっぱい出てるっ」

ほらま○でコスって
穩乃ちゃんのドスケベ汁で
ベタベタにしてくれよっ」

ヌルッ

ヌルッ

ニヒ

ヌルッ

ニヒ

ニヒ

「レ」っっ

そりゃ穩乃ちゃんのマン汁だぜっ
もう大洪水ってレベルじゃねーな

ヌルッ

「ガマン出来ねえくらい
キモ予いだろ」

「うんっ♡」

アソコがジンジン
熱くなってるの♡」

「いひひっ♡」

チ○ポ挿入れたら
こんなもんじゃねえぞ♡」

「も……」

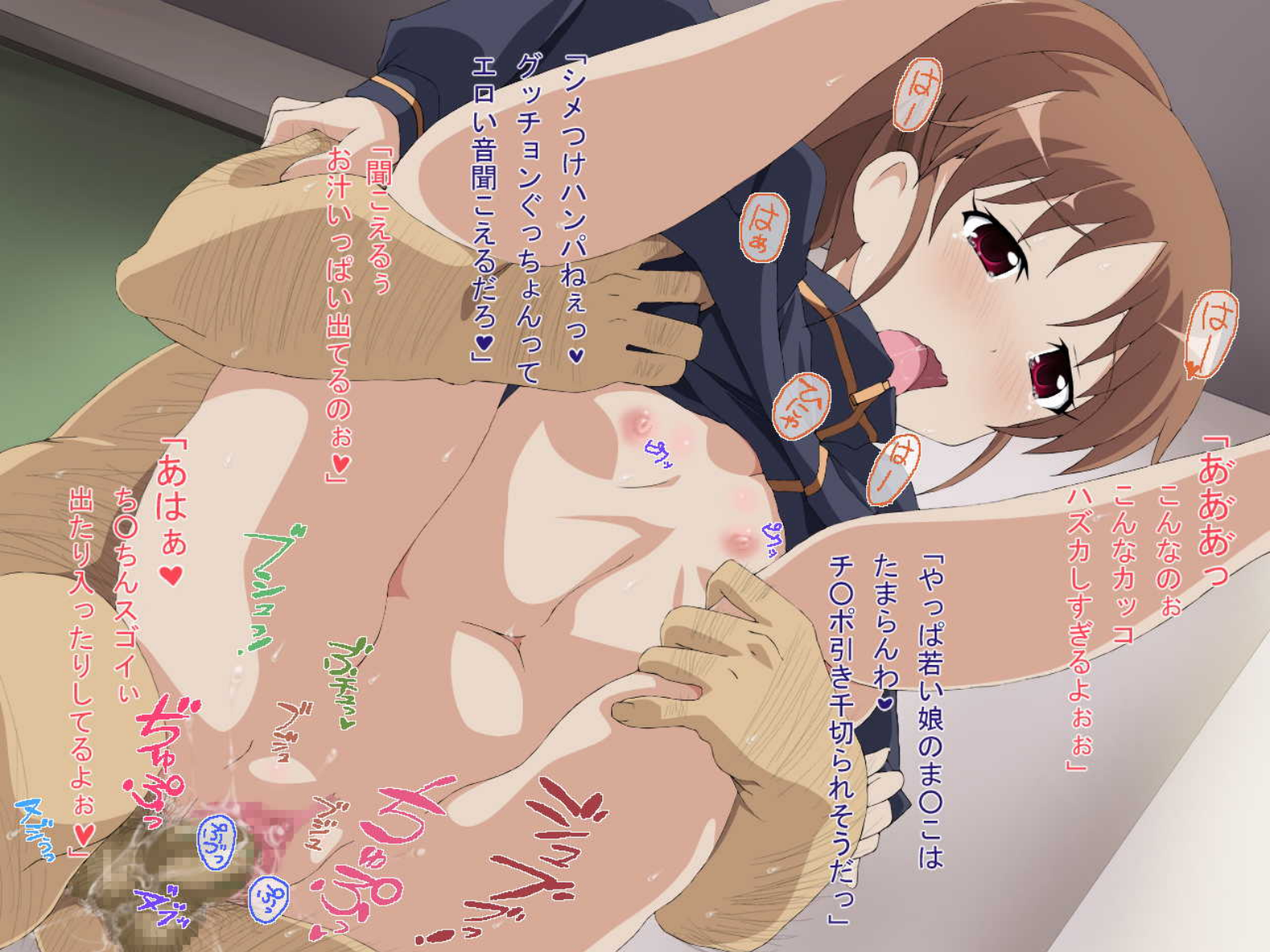
もうイれてよおっちゃん
ジラしちやだよお
チ○チンちよーだい♡」

はあ

はあ

はあ





はー

「あああつ

「こんなのお
「こんなカッコ
「ハズカしすぎるよおお」

「やっぱ若い娘のま〇」は
「たまらんわ♡
「チ〇ポ引き千切られそうだっ」

はぁ

はぁ

はー

「シメつけハンパねえっ♡
「グッチョンぐつちよんって
「エロい音聞こえるだろ♡」

「聞」えええっ

「お汁いっぽこ出してるのぉ♡」

「あはあ♡

「ち〇ちんスゴイい
「出たり入ったりしてるよぉ♡」

淫靡

淫靡

淫靡

淫靡

淫靡

淫靡

淫靡

淫靡

淫靡



「おんっ」

もう射精そうだわ
ザーメン たっぷりブチまけるからなっ

「うんっ♡きてっ♡」

ビュっ♡してっ♡♡

おなかの中おっちゃんので
いっぱいにしてっ♡♡

「おおおおお...」

「デるっっ!!」

「うおおおおあああ♡♡」

ナカダシしゅ♡いい♡♡

あふれ出ちゃっっ

「セーエキま〇〇」から出てきちゃっ♡♡

「ナカに射精されるのって

サイコーだろ♡」

「うんっ♡♡」

クセになっちゃっ♡♡

んっ♡♡

んっ♡♡

んっ♡♡

んっ♡♡

んっ♡♡

んっ♡♡

「玄ちゃんは
セックスすんの初めてなんだから
まずはオレのチ○チンを
好きになってもらわんとな
ほら♡しゃぶって」

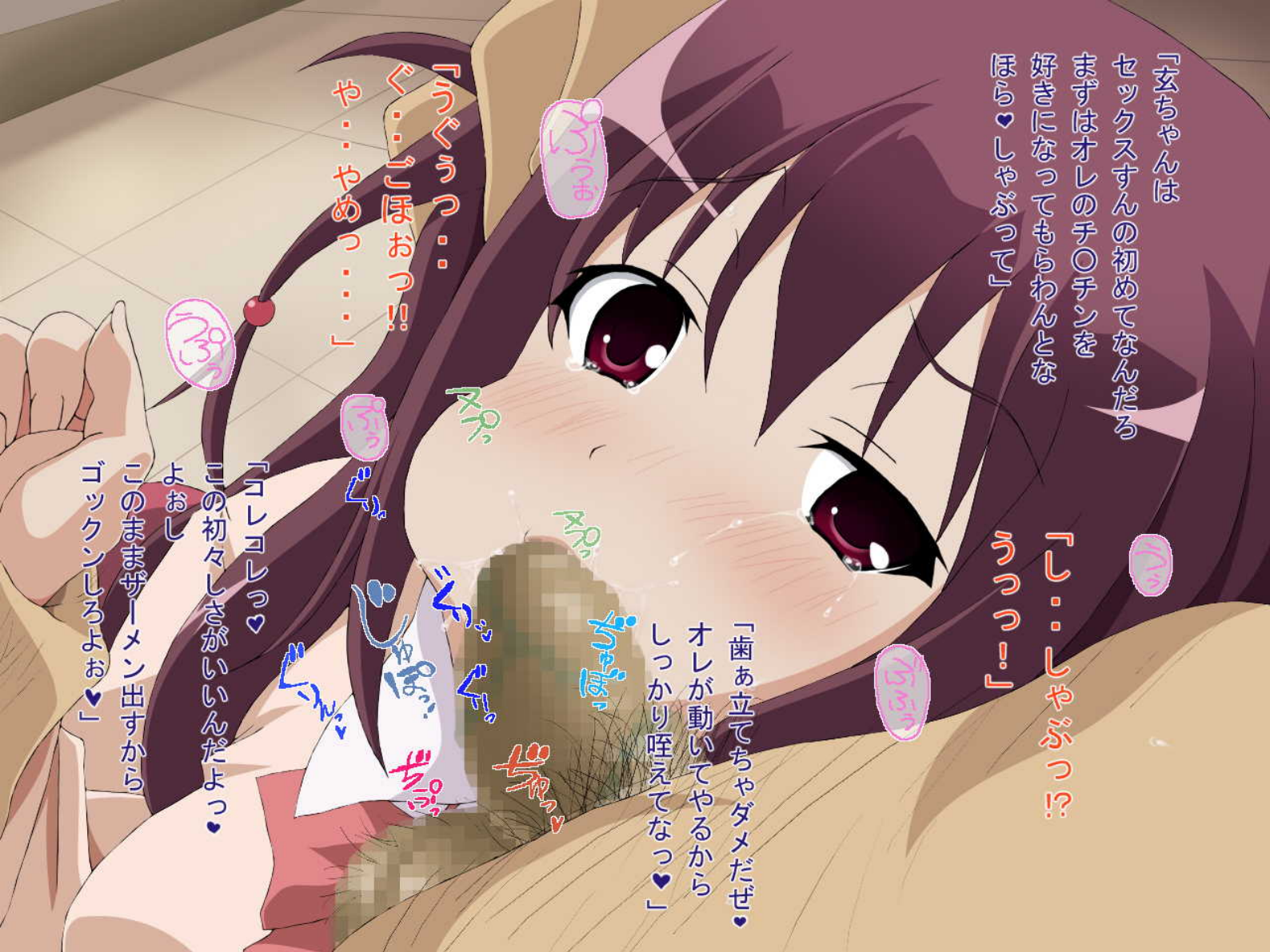
「し……しゃぶっ!!
うっっっ」

「歯あ立てちやダメだぜ♡
オレが動いてやるから
しっかり啜えてなっ♡」

「うぐっっ……
ぐ……」ほおっ!!
や……やめっ……」

「ロっっっ♡
この初々しさがいいんだよっ♡
よおし

「このままザーメン出すから
ゴックンしろよお♡」



「んんんーっ!!!
うぶううっ!ふおお
ぶはあっ!はあっ」

「おっと
口を離しちゃダメだぞお♡
オヤジの一番搾り
しっかりと味わいな♡」

「ひびっ…ほふあっ…」

「ドロドロ濃厚で美味しいだろお♡
一度飲んだらクセになるからよ」

「ひへえ…
クサイよお
これえやダあ…」



「んじや挿入れるからな
カ抜けよっ」

ズッ

ズッ

ズッ

「いひいいいっ!!!」

は・はいつてるうう

知らない人のオオンチン

挿入いつてるううう!!」

ズッ

ズッ

「イヒヒっ」

これだから処女はたまんねえのよ

肉がチ○ポを追い出そうとしやがるっ

そおらゝ動くぞおゝ」

「おおあっ!!」

イタいつ

痛いよおっ!!」

「なあにすぐ良くなるって

チ○ポの先っぽが奥にツンツン

当たると分かるだろお♡」

「ひぎいい!!」

こわれるうう

おなかのなかあ

こわれちゃうよおおお!!!」

もっ

ズッ

ひい

ズッ

ひい

ひい

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

「よおし♡射精すぜっ♡
ケツにたっぷりとよお♡
玄ちゃんもガマンしねえで
シヨンベン出しちまえよっ♡」

おはちゅん♡
おはちゅん♡
おはちゅん♡

おはちゅん...

ドッポッポッポッ
ドッポッポッポッ

ドッポッポッポッ
ドッポッポッポッ

ドッポッポッポッ
ドッポッポッポッ

ドッポッポッポッ
ドッポッポッポッ

「あぁあぁあぁあぁ...
おしり熱い♡いいいいいい♡
でてるう♡セーエキい♡
射精てるよおおおおおお♡
はぁあぁあぁあぁ♡」

「グヒヒっ♡
こりやスゲえ
もっ汁という汁で
体じゅうがベタベタだぜ♡」

「おじさあん♡
チ○ポお...♡
もっとチ○ポしてえ♡」

ひん

ひん

ひん

おはちゅん

おはちゅん

おはちゅん

おはちゅん

「ぶはあ・・・
オジさんのお○んちん
いっぱい汁出てるね
全部吸い取ってあげる♡」

『お・オイオイっ
し・舌の動きがタマランっ
口の中で皮をめくってやがるっ♡』

「んんんっ♡
んんんっ♡ちゅばあ♡」

「んんんっ♡」

「んんんっ♡」

「んんんっ♡」

「んんんっ♡」

「んんんっ♡」

「憧ちゃん舌テクす♡すぎだわ
こんなフェラ初めてだぜ♡」

「じゃあ
こんなのはどっ？」

「んんんっ♡」

「うほお♡
その吸い付きっ♡
こりゃスグにイっちまうよっ♡」



「ほれっ
後ろ向きな」

「あうっ♡
深いいい♡
オジさあん
はげしいよお♡
赤ちゃんのお部屋
ガンガン突き上げてっ♡」

「待ってるっ♡
エロビッチマ○コに
たっぷり
流し込んでやるからなっ♡」

「キてえ!!
セーエキきてっ!!
もっとチ○ポギューって
してあげるからあ♡」

「ぐうおっ!!
また締め付けがキツくなりやがったっ
マン肉がグネグネ動いてやがるっ!」



「ぬうおおおおつ
ハラめっ!!」

きたねえオツサンセンサーで
孕んじまえっ!!」

「おはああああ!!!」

デてるうう!!」

おくまでいっぱいキてるうううう!!」

「望みどおり
一滴残らずぜくんぶ
射精してやるからなっ♡」

「「……こんなのお……さし」「お
オジさんの子供できちやうよお♡」

「ゲへへっ
またチ○ポしたくなったら
いつでも呼ぶんだぜ♡」

「ゲへへっ
またチ○ポしたくなったら
いつでも呼ぶんだぜ♡」



「宥ちゃんは寒がりなんだってな
なあにオレにまかせな
体じゆうポカポカになって
すっげえキモチよくなる方法を
教えてやるよ」

はあ

「な・・・
なにをするんですか？」

「まあ言っとおりにしろって
ますおっぱいを出してだな・・・」

ゆき

「二つやって両手でかかえて
チ○ポを挟み込むんだよ♡」

「え・・・ええっ!!
挟むんですか!？」

「どうだい
少しあつたかくなってきたろ♡」

「あ・・・ホント・・・
お○んちんあつたかあい」

「ふええ!!」

キョ

キョ

キョ

キョ

キョ

キョ

キョ

キョ

キョ

キョ

キョ

キョ

キョ

キョ

キョ

キョ



わあ...

「そのまま挟んでシゴいてみ
もっと暖かくなるからよ」

どろろ!

「ん...あうっ!!」

スゴい...これ

おっぱいあつうい」

どろろ

あつうい

どろろ

スゴい

どろろ

あつうい

「あつうい...」

「こりゃ辛抱たまらんわ
今からチ○ポミルク射精してやんよ」

「スゴい
み...ミルク?」

「ひゃっ!!」

「これすごく熱いよお

お○んちんから

あつあつのミルクでてるうう」

んんん

あまう

ひやあ

「よし」
準備運動は終わりだ
こっからが本番だぜ」

次はチ○ポを脚で挟んで
股を思いつきり開きな」

「んんん」
このカッコ
なんかイヤあ」

「ぶひひっ、

それで「コ」をコスるっ」

「あうう!!ダメえ!

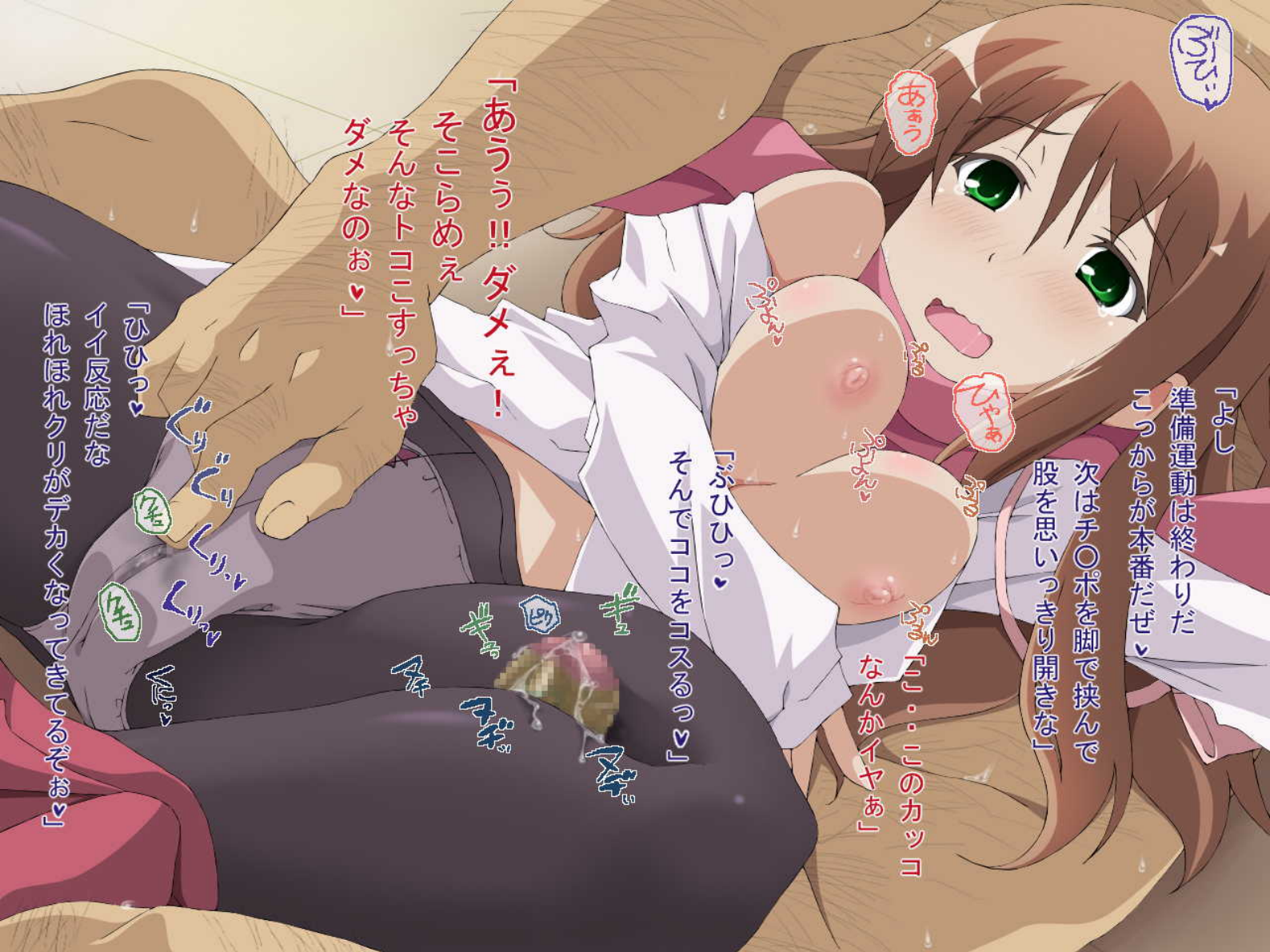
そこらめえ
そんなト「コ」すっちゃ
ダメなのお」

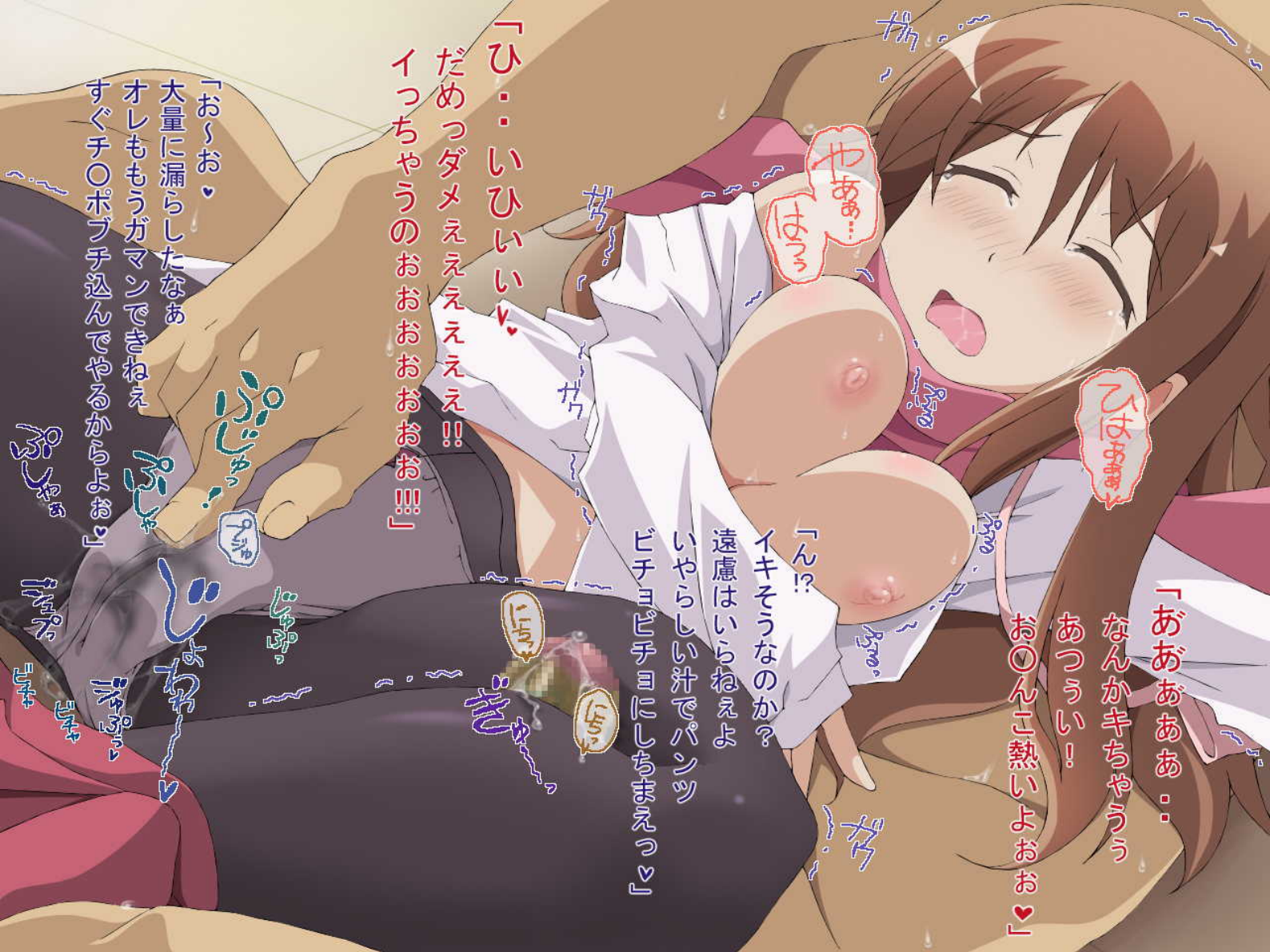
ギ
ギ
ギ
アゴ
アゴ

びびっ
びびっ
びびっ

「ひひっ」
イイ反応だな

ほれほれクリがデカくなってきているぞお」





てはあぁ

やあぁ...
はう

「ひ・いひいひい♪
だめっダメええええええ!!
いっちゃうのおおおおお!!!」

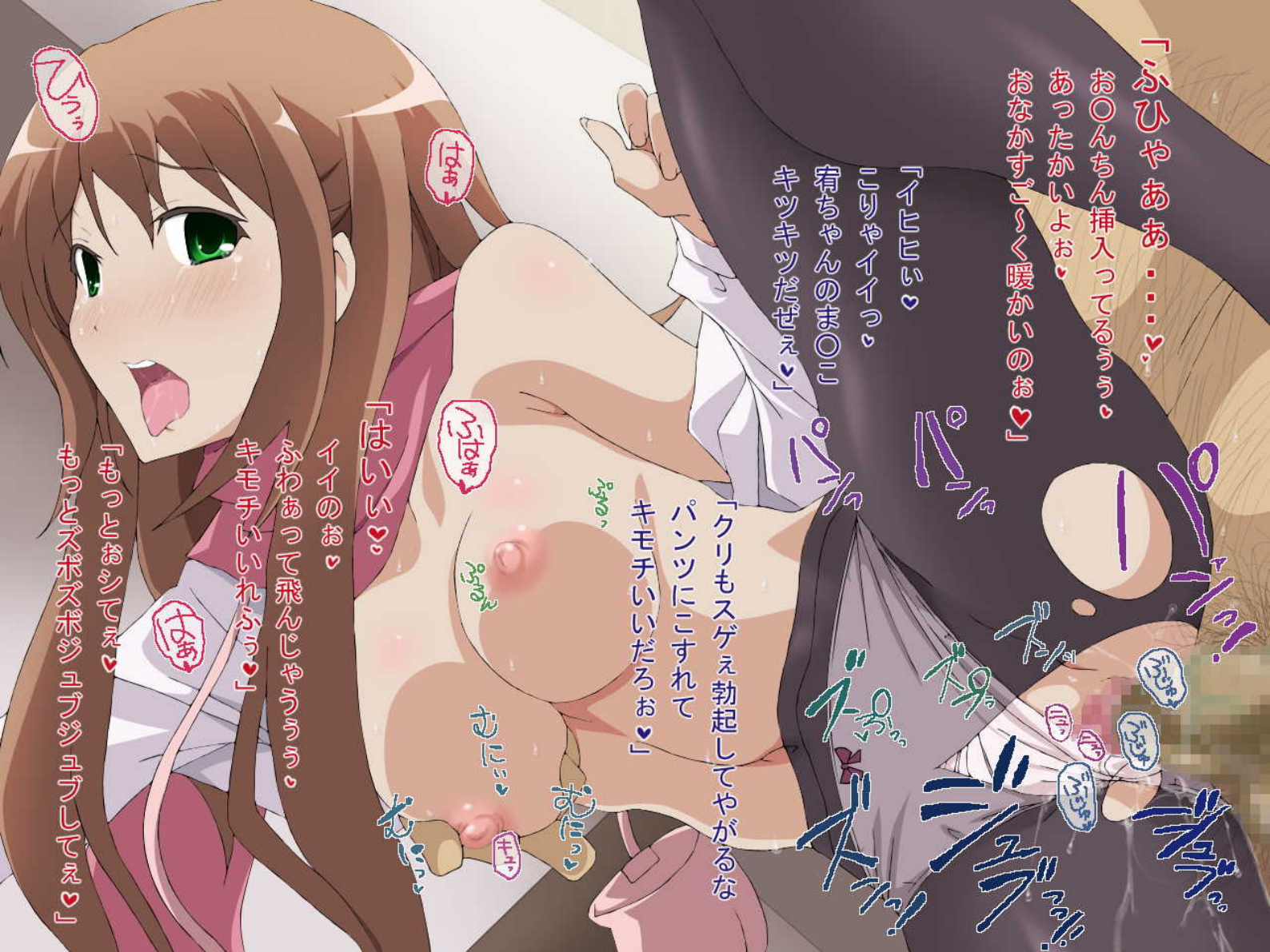
「おおあぁあ...
なんかキちやうう
あつうい!

お〇んこ熱いよおお♡」

「ん!?!
イキそうなのか?
遠慮はいらねえよ
いやらしい汁でパンツ
ビチヨビチヨにしちませっ♡」

「おおお♡
大量に漏らしたなあ
オレももうガマンできねえ
すぐチ〇ポブチ込んでやるからよお」

おろろろろ
びびびび
んんんん
んんんん
んんんん
んんんん
んんんん
んんんん
んんんん
んんんん
んんんん



「ふひやああ……♡」

お○んちん挿入ってるうう♡

あったかいよお♡

おなかすごく暖かいのお♡」

「イェイ♡」

「こりやイイっ♡」

宥ちゃんのま○」

キツキツだせえ♡」

「クリもスゲえ勃起してやがるな

パンツにこすれて

キモチいいだろお♡」

「はい♡」

「はい♡」

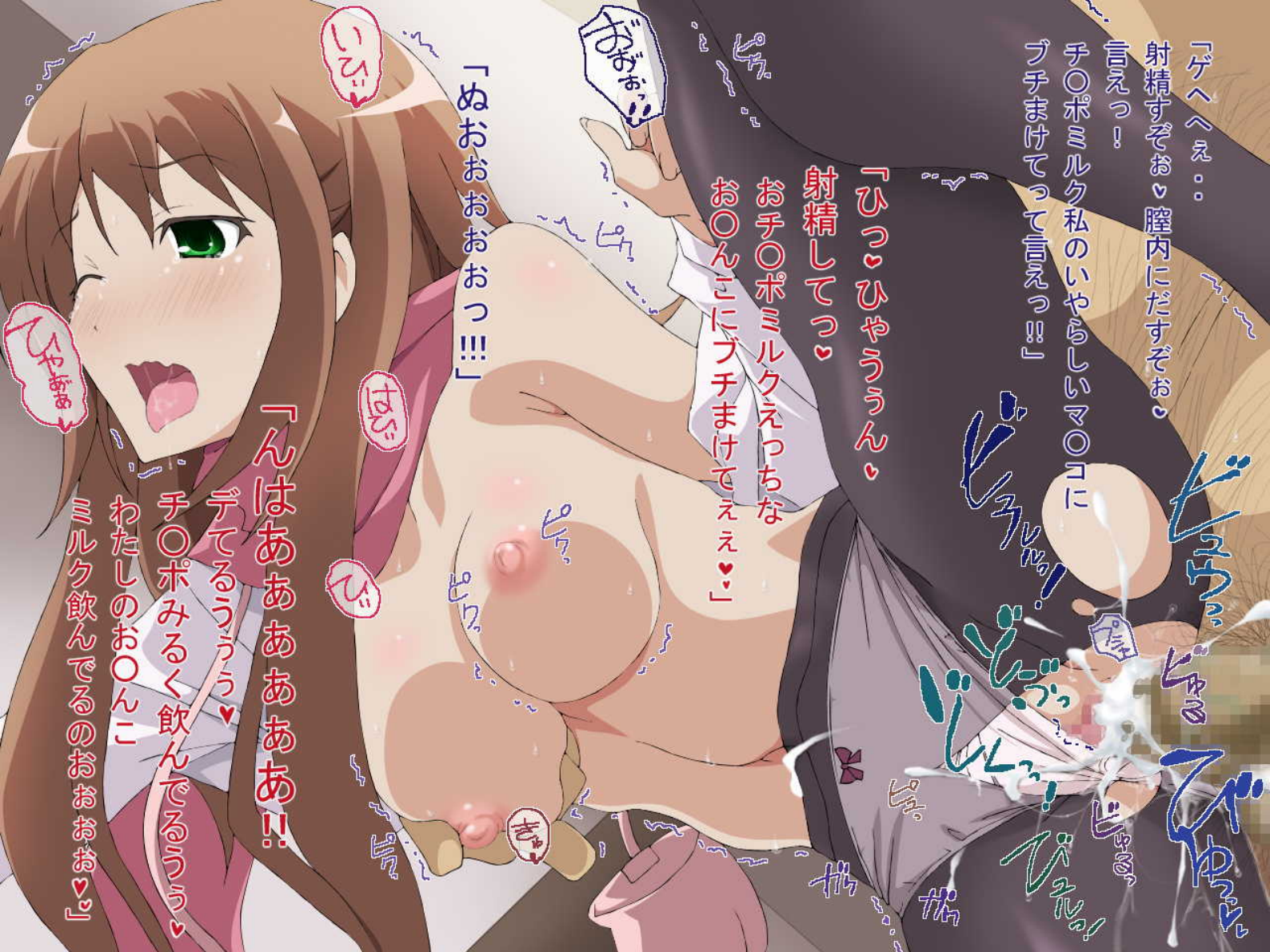
「いいお♡」

ふわあつて飛んじやううう♡

キモチいいれふう♡」

「もっとおしでえ♡」

もっとスポスポジュブジュブしてえ♡」



「ゲへへえ...
射精すぞお♡膣内にだすぞお♡
言えっ!

チ○ポミルク私のいやらしいマ○に
ぶちまけてって言えっ!!」

「ひっ♡ひやううん♡

射精してっ♡

おチ○ポミルクえっちな

お○んこにぶちまけてええ♡」

「ぬおおおおおつ!!!」

「んはあああああ!!

デてるうううう♡

チ○ポみるく飲んでるううう♡

わたしのお○んこ

ミルク飲んでるのおおお♡」

ひやああ

いっ

あ

ひ

き

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

「グへへっ♡
これやってみたかったんだよな
松実姉妹のサイズリ♡」

「玄ちゃんどっつよ
おねーちゃんとの共同作業は♡」

「……こんなのって
おかしいよっ
お姉ちゃんに何したのっ」

「ほらっ
宥ちゃんに負けてるぞおお
もっとおっぱい動かさないといっ♡」

「お姉ちゃんダメだよっ!!
こんな人の言う事聞いちゃあ……」

「あはあ♡
玄ちゃんも
すっごく暖かいでしょ♡」

「シタかったの♡
玄ちゃんと一緒にえっちな事
いっぱいしたかったのお♡」

「お……お姉ちゃん……」





「わ：私もっ…」

私もお姉ちゃんと一緒に
えっちなコトしたかったのっ！」

はあ

「又おおっ!!」

二人ともホンキになったなっ
こりや耐えられんっ♡
射精すぞっ！ブっかけるぞっ!!」

「んっ!!」

「ミルクでたあ♡」

「あっ射精た射精たっ♡
二人ともセーシみれで
エロカワイイぜっ♡」

「はあっ♡
「アロアロお♡セーシ好きい♡
玄ちゃん
もっといっぱい
キモチよくなるっね♡」

「うん♡」